

水辺からの都市再生シナリオに関する研究

日本大学理工学部 正会員 ○吉川勝秀
(独) 科学技術振興機構 正会員 本永良樹

1. はじめに

過去 100 年間に我が国では急激な人口増加とそれに伴う急激な都市化を経験してきた。この急激な都市化は氾濫原で進展し、その結果、日本の都市は洪水水位よりも低い土地に発達してきた。今日では人口の約 50%、資産の約 75%が洪水被害を被る可能性のある氾濫原に集中している。その結果都市を堤防で守る必要が生じ、極端な例としては**写真-1(左)**に示すような切り立った堤防（パラペット堤防）により人々の川へのアクセスが制限されるような状況が生まれた。しかしながら現在ではこのような喪失した河川空間を再生する様々な事例が実践されている。**写真-1(右)**は隅田川の再生事例であるが、川の内側を緩傾斜化またはスーパー堤防化して、その前面の川の中にリバーウォークを整備することにより、川辺に人々がくつろげる空間が再生されている。

人口減少が予測されるこれからの時代においては、自然と共生するという視点に立った都市の再生が求められる。その際、都市空間の約10%を占める公共空間である河川空間の再生がますます重要となる。都市の中の河川空間を再生し、都市の中で残された緑と結びつけることで水と緑のネットワークを形成し、自然と共生した都市を目指すことが考えられてよい。本研究では国内外における先進的な水辺からの都市再生の事例についての情報を収集・整理し、今後の水辺空間再生に資することを目的としたものである。

2. 水辺および緑の保全・再生についての取り組み

東京首都圏およびその周辺に残された緑の保全・活用に関しては「自然環境の総点検等に関する協議会」

(平成 14 年 3 月設置) により、首都圏において保全すべき自然環境として既に 25 のゾーンおよび河川が抽出されている。図-1 にこの自然環境を保全すべきゾーンおよび河川的位置を示す。日本橋を中心とした半径約 20~50km の範囲内におけるまとまった緑が選ばれている。これらの自然環境を保全・再生することにより水と緑のネットワークを形成することが目指されている。

図-2 は首都圏およびその周辺における明治 40 年頃から現在(平成 13 年)までに消失した河川・水路網分布図である。約 100 年前と比較して首都圏では多くの水面が消失しているのがわかる。特に中川・綾瀬川流域の下流域では明治 40 年頃と比較して約 80%の河川・水路網が消失している。図-3 は首都圏における親水公園や緑道等の位置を示している。このようにかつて存在したが都市化の過程において埋め立て・暗渠化等により消失した河川・水路網を復活させる試み

キーワード 水辺からの都市再生、水と緑のネットワーク、都市再生シナリオ



写真1 スーパー堤防整備前(左)と後(右)の隅田川

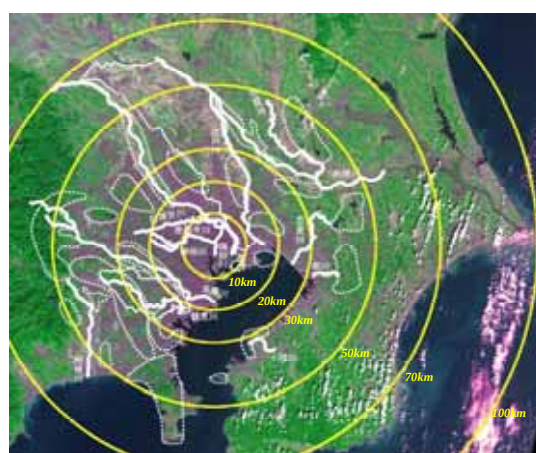


図-1 首都圏において保全すべき自然環境位置図
(自然環境の総点検等に関する協議会より作図)

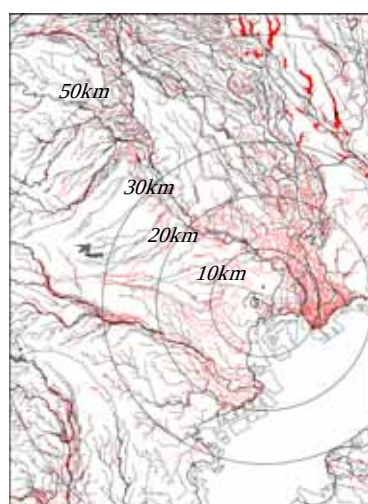


図-2 河道網の消失
(明治40年頃と平成13年の比較)
(赤線が消失した河道網を示す。)

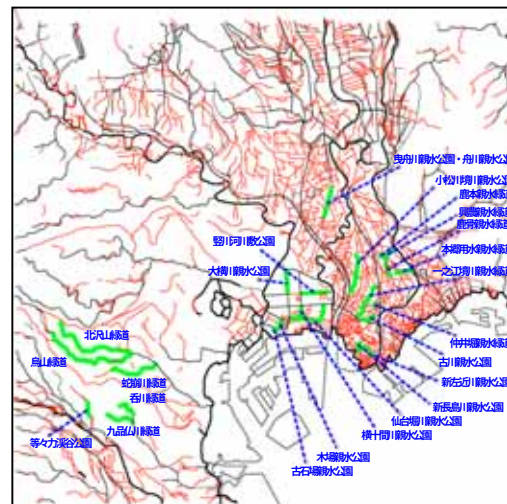


図-3 首都圏における親水公園・緑道等の位置図
(消失した河川を再生させた事例)

は既に始まっている。残された河川・水路のみではなく、このようにかつての流れを復活させ、水と緑のネットワーク形成に役立てることが考えられてよい。

3. 国内外における水辺空間再生の事例

都市の中に残った河川空間を保全・再生し、自然と共生した都市を再生する事例が実践されている。国内外の先進的な実践事例について収集した情報を以下に紹介する。

写真-2 は**写真-1** と同じく東京都隅田川の水辺空間再生事例についてである。スーパー堤防事業等により再生した隅田川の空間に、オープンカフェテラスを試験的に設置することにより、川辺に人々の賑わいを取り戻した実践事例である。隅田川は行政（東京都）主導の水辺空間再生事例であるが、市民主導・行政参加で進められた水辺空間再生事例として徳島市の新町川が挙げられる。NPO 新町川を守る会による定期的な河川清掃、河畔での花壇育成等の活動を通して水辺空間を再生している（**写真-3**）。

アジアの都市における水辺空間再生の事例としては、河川再生と都市再生を一体的に進めたシンガポールのシンガポール川（**写真-4**）や、都市化の過程で暗渠化した河川を再生することで水辺空間を蘇らせるだけでなく、都市の持つ歴史的・文化的な背景に対する関心を高めようとしている韓国ソウル市の清溪川（チョンゲチョン）再生事例（**写真-5**）がある。河川と都市を一体的に再生した事例としては他にも中国上海の蘇州川再生事例（**写真-6**）や中国北京の高梁河再生事例（**写真-7**）がある。

国内外にはこれら以外にも、かつて環境が悪化し人々が近づかない状況にあった都市を流れる川を整備し、また人々を川辺へ引き付けるような工夫を施すことによって水辺空間を再生した事例が多くある。今後はこれらの事例についてそれぞれが成し遂げられた経過等を調査していくことが考えられる。

4. まとめ

本研究により得られた知見を以下に示す。1) 残された緑や河川を保全し、また都市化の過程で消失した河川・水路を復活させることで水と緑のネットワークを形成し、自然と共生した都市の創造が考えられてよい。利用できる緑や河川、かつての河川網の存在を確認した。2) 水辺再生からの都市再生について、国内およびアジアの国々の先進的な事例について調査示した。

参考文献：

- 1) 吉川勝秀：河川流域環境学，技報堂出版，2005.3
- 2) リバーフロント整備センター編：「川からの都市再生」，技報堂出版，2005.3
- 3) 吉川勝秀・本永良樹：日本における川と国土の変遷および今後モンスーン・アジア地域で予想される河川環境に関する問題とその対策について，建設マネジメント研究論文集，Vol.11，pp.293-300，2004.12



写真-2 オープンカフェテラス設置による隅田川の水辺の賑わいの再生



写真-3 新町川における市民による河川清掃（左），河畔整備（右）



写真-4 シンガポールのシンガポール川再生事例



写真-5 ソウル市清溪川再生事業現場
現状（左）と高架道路撤去後のイメージ画像（右）



写真-6 中国上海の蘇州川再生事例



写真-7 中国北京の高梁河再生事業
河川再生と合わせてビルと道路が開発された区間（左）と両岸の古い町並みが残る区間（右）